

平成29年度

和歌山県立近代美術館の運営状況に対する評価書

和歌山県立近代美術館

	事業評価	2
1	展覧会（特別展）	3
	展覧会（企画展）	5
	展覧会（常設展）	7
2	調査・研究	11
3	作品・資料の収集	12
4	作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等	13
5	教育普及	14
6	国内外との連携	17
7	安全と快適性	18
8	入場者数と財源の確保	20

和歌山県立近代美術館評価様式（平成 29 年度事業評価用）

<p>美術館長による評価</p>	<p>展覧会については、特別展として開催した「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」と「明治 150 年記念 水彩画家・大下藤次郎展」は、それぞれ福武コレクションと岡山県立美術館、そして島根県立石見美術館の協力を得て開催できたものである。当館の限られた展覧会事業予算ではあったが、「国吉と石垣」展では、アメリカに残されていた石垣の新たな作品を発掘・収蔵し得たこと、「大下藤次郎展」では、閉幕後展覧会交換事業として、当館のコレクション展を借用先の石見美術館でも開催できたこと（「和歌山県立近代美術館名品展『モダン・アートに会う5つの扉』、4月から6月）は、今後の地方公立館とのコレクションの交流事業を考える意味でも貴重な成果であった。また、「大下藤次郎展」は、内閣府の「明治 150 年」に賛同して開催され、石見美術館での「名品展」では、会期中に当館学芸員による教育事業も行った。さらに、先述のふたつの展覧会では、図録に代わる8頁構成のパンフレットを刊行し、来館者に無料配布した。</p> <p>今年度の収蔵作品については、これも限られた予算の枠内で、先の石垣作品をはじめ、洋画・日本画作品に秀作を購入することができた。</p> <p>また、夏休み恒例の「なつやすみの美術館」でも、多くの来館者を集め、会場内でのワークショップの常時開催という当館ならではの企画も合わせ、子どもと大人が出会う活気ある場となった。</p>
<p>評価部会による評価</p>	<p>展覧会をはじめ、各事業とも着実に取り組んでおり、評価できるだけの業績を上げている。それゆえに事業費の不足がかえって目立つ結果となっている。図録などの印刷物の制作も評価すべき項目だが、内容以前に制作費が捻出できず制作が行えないのは問題である。</p> <p>入場者数は当初の目標に達していないので、来館者増に向けての一層の取り組みは求められるが、大規模展の開催により入館者数の多かった前年の数値も入場者数算出の基準にするのは無理がある。また、予め数値目標を定めることにも問題がないとは言えない。数値に現れない評価の基準をどのように考えていくかも課題である。</p> <p>一方で入場者の増加に向けては、展覧会の題名を工夫し、より広い層に向けてアピールしていく必要がある。地元には大きなメディアが少ないのに加えて、大きな集客が見込めない土地柄であることから、大手メディアに頼ることも難しい立地であることを踏まえて、着実な活動を行うことが望まれる。特に、魅力的な内容であることを訴えかけるような展覧会の題名を工夫していただきたい。特に和歌山を強調する必要はないのではないかとと思われる。</p>

1 展覧会（特別展）

美術館長による所見	特別展として「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」を、福武財団と岡山県立美術館の協力を得て開催し、また、内閣府の明治 150 年記念事業に参画した「明治 150 年記念 大下藤次郎展」を、島根県立石見美術館の全面的協力を得て開催することができた。両展覧会とも8頁のリーフレットを作成し、来館者に無料配布したが、今後は、特別展開催時には、当然のことではあるが図録が作成できるよう努力したい。
評価部会による所見	「アメリカへ渡った二人」は国吉康雄と石垣栄太郎の業績を対比する展示の構成に工夫が見られ、非常に良い内容であった。「大下藤次郎展」は日本の近代美術史上の影響の大きさに比べると、近年特に関西では見られる機会の少ない大下の業績を紹介した内容で評価できる。大下展では島根県立石見美術館の制作した書籍があったが、「アメリカへ渡った二人」展の図録が制作できなかったことは残念であり、更に輸送費の問題で出品できなかった作品もあり、事業費の確保が求められる。

①特別展-1

アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎

会 期：10月7日（土）～12月24日（日）

会 場：展示室 C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 29 年度目標	戦前のアメリカへ移民として渡り、太平洋戦争という困難な時期をくぐりながら、画家として活躍し、親交のあった国吉康雄（岡山市出身 1889～1953）と石垣栄太郎（和歌山県太地町出身 1893～1958）の足跡を辿った。
自己評価・課題・改善案	福武財団をはじめ、岡山県立美術館、太地町立石垣記念館など関係機関の協力を得ることで、国吉康雄と石垣栄太郎の初めての二人展を開催することができた。また国吉研究の講座を持つ岡山大学とも協働したワークショップなど各事業を展開することができた。予算の問題からリーフレットのみ制作したが、図録を求める声が多く、今後の課題である。展示点数：20 作家 114 点、資料 47 点

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成 29 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録等を制作する。
自己評価・課題・改善案	B2 ポスター、A4 チラシ、プレスリリース、英語版概要、A4・8 頁リーフレット、出品目録を制作した。

C. 関連事業

平成 29 年度目標	講演会を 1 回、フロアレクチャーを 2 回開催する。
自己評価・課題・改善案	外部講師による講演会を 1 回、ドキュメンタリー映画上映会を 2 回、フロアレクチャーを 2 回、外部講師によるギャラリーツアーを 1 回、こども美術館部を 1 回、ワークショップを 1 回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 29 年度目標	2 人の作家が時代とどのように向き合って作品を生み出したのかわかるように、パネルなども工夫した展示とする。
自己評価・課題・改善案	移民として明治期に渡米し、20 世紀前半のアメリカで、親しい友人として過ごした二人が、対照的な作風を展開しながら困難な時代と向き合ったその軌跡を、二人とともにあった石垣の妻・綾子の回想を交えつつ辿った。二人の作品を個別に展示するのではなく、お互いの作品が向き合い対話するような展示構成とした。アメリカの研究者を招聘した講演会など多彩な関連事業も開催した。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 29 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	額にガラスやアクリルなどが入っていない作品もあったが、床に結界をテープで示して接近に注意を促し、無事に会期を終えることができた。

F. 入館者数

平成 29 年度目標	8,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4,279 名

①特別展-2

明治 150 年記念 水彩画家・大下藤次郎展

会 期：平成 30 年 2 月 10 日（土）～3 月 25 日（日）

会 場：展示室 C（2 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 29 年度目標	明治時代に活躍し、日本全国に水彩画ブームを巻き起こした水彩画家・大下藤次郎（1870～1911）。各地を旅しながら残した風景画約 100 点を展示し、懐かしく美しい明治の風景を通して洋画の黎明期を探る。
自己評価・課題・改善案	大下藤次郎旧蔵資料を調査することで、和歌山にも大下の活動に関わった人物がいたことを明らかにし、紹介することができたのは、和歌山の洋画史研究にも寄与する成果であった。大下作品と合わせ、館蔵の水彩画作品をまとめて紹介するコーナーを設け、明治時代から昭和戦前期にかけての水彩表現の広がりも提示する展覧会とすることができた。島根県立石見美術館から一括借用が可能であったために、経費的に実現することができた展覧会であったが、東京国立近代美術館が所蔵する代表作や、田辺市立美術館が所蔵する水彩画作品などを追加することができれば、より充実した展示構成とすることができたと考えられる。20 作家 151 点（うち大下藤次郎作品 124 点）、資料 40 点（大下藤次郎関連）

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成 29 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	B2 ポスター、A4 チラシ、プレスリリース、英語版概要、A4・8 頁リーフレット、出品目録を制作した。

C. 関連事業

平成 29 年度目標	講演会を 1 回、フロアレクチャーを 2 回開催する。
自己評価・課題・改善案	外部講師による講演会を 1 回、フロアレクチャーを 2 回、こども美術館部を 1 回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 29 年度目標	政府による「明治 150 年」関連施策の広報活用を検討する。
自己評価・課題・改善案	内閣府による「明治 150 年」関連事業として認められ、ウェブなどでの広報が行われた。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 29 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	比較的小型の作品が多いため盗難に注意を払い、無事に会期を終えた。

F. 入館者数

平成 29 年度目標	5,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	3,804 名

1 展覧会（企画展）

美術館長による所見	1985(昭和60)年に開催した和歌山版画ビエンナーレ展に象徴されるように、当館は近代から現代にいたる日本の版画について、系統的に収集した作品群は、全国の美術館においてもっとも優れたコレクションといった過言ではない。その「現代版画」の様相をあらためて紹介する当館の性格を前面に押し出した企画展を開催した。そして夏には、これも当館の恒例事業として定着した「なつやすみの美術館」では、「すき、きらい」をテーマに、とりわけ子供たちに、あらためて作品に興味を抱かせるような視点を設定し、多くの来館者を集めることができた。
評価部会による所見	いずれの展覧会もコレクションの紹介を軸として、これまでの活動の蓄積の上に立ち、作品の理解を深め、一般に普及することに取り組んでおり、評価できる内容である。それだけに企画展においてもパンフレットや図録など印刷物による普及や記録を残すことができるように望みたい。

②企画展-1

現代版画の展開

会 期：4月8日（土）～6月25日（日）

会 場：展示室C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成29年度目標	日本の版画が国際的に評価されるようになった1950年代から現代にいたる話題作や名品を、当館の版画コレクションを中心に紹介する。現代版画の流れを辿ることのできるコレクションの特色を活かし、時代と共に移り変わってきた表現の展開を辿った。
自己評価・課題・改善案	現代版画の展開のなかで、和歌山版画ビエンナーレが、その概念を拡大させる方に舵切り役となっていたことがあらためて分かる内容となった。和歌山版画ビエンナーレが終了した1995年以降の作品を今後どう採り上げていけるかが課題である。58作家84点、資料1点

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成29年度目標	ポスター、チラシ、出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	B2ポスター、A4チラシ、プレスリリース、英語版概要、出品目録を制作した。

C. 関連事業

平成29年度目標	フロアレクチャーを3回開催する。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャーを2回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成29年度目標	時代と共に版画の概念が拡大していく様子を、展示構成を工夫して分かりやすく示す。
自己評価・課題・改善案	当館の版画コレクションから選んだ作品をほぼ年代順・作家の世代順に展示し、最終コーナーでは1990年代の和歌山版画ビエンナーレの入賞作を中心として版画の概念が拡大していく様子が伝わるよう、立体的な作品や巨大な作品も紹介した。また作家の協力を得て、近年のコンピューターグラフィックによる作品も紹介した。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成29年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	大型作品や立体的な作品の動線に配慮し無事に展示を終えた。

F. 入館者数

平成29年度目標	3,000人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	3,562名

②企画展-2

なつやすみの美術館 7「すききらい、すき？きらい？」

会 期：7月8日（土）～9月18日（月・祝）

会 場：展示室C（2階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 29 年度目標	学校教育との連携をはかりながら、「すき」と「きらい」をキーワードに、時代やジャンルを超えて幅広い作品を紹介する。
自己評価・課題・改善案	学校教員との連携により小学生・中学生・高校生以上に向けて制作したワークシートが夏休みの課題に設定されたことで、児童・生徒たちが美術館に親しむ機会を生み出すことができた。和歌山大学学生による鑑賞会も8日間、合計24回実施したが、5年目となったこともあり、毎年繰り返し参加する来館者も見られ、定着が見られる。こういった活動を研究課題と位置づけ、記録集などのかたちで広く周知し、情報を蓄積していくことが課題である。50作家 185点、資料 16点

B. 図録・パンフレット・出品目録等の制作

平成 29 年度目標	ポスター、チラシ、出品目録、各種ワークシートを制作する。
自己評価・課題・改善案	B2ポスター、A4チラシ、プレスリリース、英語版概要、出品目録、ワークシート3種（小学生版、中学生版、高校生以上版）、和歌山大学学生によるワークシートを制作した。

C. 関連事業

平成 29 年度目標	フロアレクチャーを2回、こどもギャラリートークを3回実施する。
自己評価・課題・改善案	ギャラリートークを2回、こどもギャラリートークを3回、こども美術館部を1回、ワークショップを1回、和歌山大学学生による鑑賞会を24回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 29 年度目標	特に来館者が増える時期となるため、作品と来館者の安全を十分に確保できる展示を行う。またわかりやすい解説パネルの掲出や積極的な制作活動を行うためのエリアを設置し、幅広い年齢層がそれぞれ新しい鑑賞体験を得るためのきっかけを作る。
自己評価・課題・改善案	広く社会的に共有される感情や感覚、個人的な愛着、執着、あるいは無関心といった項目から展覧会を構成し、物事を「すき」「きらい」で簡単に片付けてしまう心理を、今一度、丁寧に振り返ることができるよう促した。展覧会の最後には、展示を通じて関心を持った作品、あるいは自分が好むものを、50色の色紙を使って自由に制作できるスペースを設け、またそれを展示することで来館者同士の振り返りを共有する仕組みを作った。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 29 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	若年層の来館が多いことに配慮し、結界などで作品の安全を確保したが、監視員の絶対数が足りず、目が行き届かないことが課題である。

F. 入館者数

平成 29 年度目標	10,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	12,130 名

1 展覧会（常設展）

美術館長による所見	現在施工工事のため休館している滋賀県立近代美術館の貴重なコレクションを預かり、これらの秀作を交えながら、当館の日本画や現代作品を、新収蔵作品を加えて紹介した。さらに和歌山県立博物館所蔵の日本画も借用展示し、特別展「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」との連動したコレクション展示も開催するなど、コレクションを活用した企画性に富む常設展を開催することができた。
評価部会による所見	当館のコレクションは和歌山の作家を軸としたものであり、その紹介であることは理解できるが、あえて和歌山を強調した題名をつけることはないのではないか。一時休館している滋賀県立近代美術館の作品を預かることによって、紹介できる作品の幅が広がっていることを一層積極的にアピールしていけば良いと考える。

③常設展-1

コレクション展 2017- 春 わかやまの名品選 + 特集：群像- 交錯する声 [平成 29 年度事業評価より再掲]

会 期： [1月27日（金）] ～5月7日（日）

会 場： 展示室 A・B（1階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 29 年度目標	常設展示 コレクションの特色を生かし、所蔵作品への理解を深められるようテーマを設けながら近現代美術の秀作を展示する。展示点数：50 作家 80 点 特集展示 コレクションの中から群像を描いた作品を展示し、そこで交錯する人の心に迫る。展示点数：20 作家 40 点
自己評価・課題・改善案	常設展示 新収蔵品を積極的に紹介するとともに、同時期に開催した企画展「泉茂 ハンサムな絵のつくりかた」に合わせ、泉が活動したデモクラート美術家協会の作家たちのほか、同時代の重要な美術団体である具体美術協会の作家たちの作品を紹介した。展示点数：57 作家 80 点 特集展示 ひとつの画面に多くの人物を描いた作品を特集し、複雑な構図の面白さや、時代や社会によって変化する人物表現を紹介した。展示点数：29 作家 47 点

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 29 年度目標	常設展示 出品目録を制作する。 特集展示 出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示とも出品目録を制作した。

C. 関連事業

平成 29 年度目標	常設展示 フロアレクチャーを 1 回開催する。 特集展示 フロアレクチャーを 2 回開催する。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示あわせてフロアレクチャーを 2 回、こども美術館部を 1 回実施した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 29 年度目標	常設展示 同時期開催の企画展に関連するコーナーを設け、理解を深められるようにする。作家解説、作品解説を充実させる。 特集展示 構図について図解するパネルを作成し、構成力が問われる群像表現の魅力を読み解く。
自己評価・課題・改善案	常設展示 新収蔵品を積極的に紹介するとともに、同時期に開催した企画展「泉茂 ハンサムな絵のつくりかた」に合わせ、泉が活動したデモクラート美術家協会の作家たちのほか、同時代の重要な美術団体である具体美術協会の作家たちの作品を紹介した。フロアレクチャーへの参加者が少なく、効果的な広報が課題として残った。 特集展示 比較的珍しい「群像」という切り口によって、その成立背景や歴史的展開についても調査し、紹介することができた。作品解説、構図解説を充実させることが課題である。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 29 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	事故なく会期を終えたが、彫刻作品の展示について、鑑賞と保全の双方に配慮することが課題である。

F. 入館者数

平成 29 年度目標	3,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	1,448 人[前年度からの総計 4,442 人]

③常設展-2

コレクション展 2017- 夏 特集 おはなしのなかへ

会 期：5 月 30 日（火）～9 月 10 日（日）

会 場：展示室 A・B（1 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 29 年度目標	常設展示 コレクションの特色を生かし、明治、大正、昭和という時代の流れに沿って所蔵作品への理解を深められるよう近現代美術の秀作を展示するとともに、改築にあわせて滋賀県立近代美術館より寄託された作品により現代美術の展開を紹介する。展示点数：50 作家 100 点。 特集展示 描かれたおはなしを手がかりに作品を楽しむきっかけを作る。展示点数 40 点
自己評価・課題・改善案	常設展示 和歌山県ゆかりの作家を中心に明治以降の時代の流れを紹介するとともに、滋賀県立近代美術館所蔵作品を交えて現代美術の秀作を紹介した。展示点数：61 作家 72 点 特集展示 おはなしに基づく作品と原作の内容を紹介するとともに、旅に焦点を当てて作品自体で一つのおはなしを構成するような作品のあり方や、演劇、映画などへの示唆も含めた展示を行った。展示点数：31 作家 111 点

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 29 年度目標	常設展示、特集展示とも出品目録を制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 出品目録を制作した。 特集展示 出品目録、英語版概要を制作した。

C. 関連事業

平成 29 年度目標	特集展示 フロアレクチャーを 3 回実施する。
自己評価・課題・改善案	フロアレクチャーを 3 回実施した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 29 年度目標	常設展示 季節感を感じさせる作品を紹介する。 特集展示 原作がある作品についてその内容を紹介するとともに、物語を描写した作品の紹介のみにとどまらない内容を工夫する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 滋賀県立近代美術館の収蔵作品を交えて近代から現代への美術の展開を紹介した。 特集展示 絵画にとどまらず、立体作品や書籍を交えて単調にならないよう展示を工夫し、手許で読めるよう内容の紹介を出品目録にまとめた。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 29 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示とも来館者の多いことが予想される時期のため、結界を多く設置して安全確保を行った。

F. 入館者数

平成 29 年度目標	11,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	11,743 名

③常設展-3

コレクション展 2017- 秋 特集 NANGA 俗を去り 自ら楽しむ

会 期：9月20日（水）～12月17日（日）

会 場：展示室 A・B（1階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 29 年度目標	常設展示 コレクションの特色を生かし、所蔵作品への理解を深められるようテーマを設けながら近現代美術の秀作を展示する。展示点数：50 作家 80 点 特集展示 山口八九子ら日本南画院等のグループで活躍した日本画家のほか、ゴーギャンのタヒチ行に憧れ、南画の型を踏襲しつつ理想郷的な世界観を表現しようとした画家たちをとりあげる。展示点数：30 作家 50 点
自己評価・課題・改善案	常設展示 近現代美術の秀作を展示するとともに、順路を右回りにして動線を工夫した。展示点数：65 作家 97 点 特集展示 和歌山県立博物館から作品を借用し、江戸時代の紀州三大文人画家といわれる作家を紹介した。滋賀県立近代美術館から寄託を受けている作品もあわせ、特集展示を充実させた。展示点数：28 作家 45 点 資料 16 点

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 29 年度目標	常設展示 出品目録を制作する。 特集展示 作家解説、出品目録、英語版概要を制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示ともプレスリリース、英語版概要、出品目録を制作した。

C. 関連事業

平成 29 年度目標	常設展示 フロアレクチャーを 3 回開催する。 特集展示 フロアレクチャーを 3 回開催する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 フロアレクチャーを 3 回開催した。 特集展示 フロアレクチャーを 3 回開催、こども美術館部を 1 回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 29 年度目標	常設展示 同時期開催の企画展に関連するコーナーを設け、理解を深められるようにする。また、滋賀県立近代美術館からの寄託品とともに、当館所蔵品の魅力を紹介する。 特集展示 作品解説や作家解説のほか、「詩書画一致」の世界に触れられるよう画賛も翻刻・解説する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 同時期開催の特別展「アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎」に合わせ、国吉や石垣と同じく戦前からアメリカで活動した作家による当館所蔵作品や、戦後にアメリカを活動拠点とした日本人作家を含めた 20 世紀後半のアメリカの美術を、滋賀県立近代美術館のコレクションとともに紹介した。 特集展示 当館所蔵品に加え、和歌山県立博物館、滋賀県立近代美術館の所蔵品を展示することにより、近世・近代の南画の名品とともに、和歌山と南画の密接な関係も紹介できた。プレスリリースの作成や他館への出品依頼など、運営面の計画的な進捗が課題である。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 29 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示とも大型作品には結界を設けるなど安全確保に留意した。

F. 入館者数

平成 29 年度目標	5,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4,240 名

③常設展-4

コレクション展 2018- 冬春 特集 はじまりの景色

会 期：平成 30 年 1 月 4 日（木）～ [4 月 15 日（日）]

会 場：展示室 C（2 階）

A. 展覧会の内容・出品作品・構成等

平成 29 年度目標	常設展示 コレクションの特色を生かし、所蔵作品への理解を深められるようテーマを設けながら近現代美術の秀作を展示する。また、改築にあわせて滋賀県立近代美術館から寄託された作品により、当館の現代美術コレクションに厚みをもたせた展示を行う。展示点数：50 作家 80 点 特集展示 新年・新年度の特集として「はじまりの景色」を設け、作者が初期作品を展開させる過程や、スケッチから本画へのプロセスなど、生まれ、成長する表現の魅力を紹介する。展示点数：20 作家 50 点
自己評価・課題・改善案	常設展示 所蔵作品を通して美術文化への理解を深められるよう、テーマを設けながら和歌山ゆかりの作家を中心に近現代美術の秀作を展示した。展示点数：38 作家 70 点 特集展示 新年の特集として「はじまりの景色」を設け、作者が初期作品を展開させる過程や、スケッチから本画へのプロセスなど、生まれ、成長する表現の魅力を紹介した。展示点数：31 作家 70 点

B. パンフレット・出品目録等の制作

平成 29 年度目標	常設展示 出品目録を制作する。 特集展示 作家解説、出品目録、英語版概要を制作する。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示ともプレスリリース、英語版概要、出品目録を制作した。

C. 関連事業

平成 29 年度目標	常設展示 フロアレクチャーを 1 回開催する。 特集展示 フロアレクチャーを 2 回、スライドレクチャーを 1 回開催する。
自己評価・課題・改善案	常設展示、特集展示でフロアレクチャーを 3 回開催した。

D. (A, B, C 以外の)展覧会の工夫

平成 29 年度目標	常設展示 同時期開催の特別展「大下藤次郎」に関連のあるコーナーを設け、当館のコレクションへの関心を高める。 特集展示 作品の成り立ちを有機的に示すことにより、作品を読み解く楽しみを提示する。
自己評価・課題・改善案	常設展示 滋賀県立近代美術館から寄託された作品を、当館のコレクションにあわせて展示することで、当館の所蔵作品の価値を深め、また、滋賀県立近代美術館が閉館中のいま、当館でその作品を見た人が、溜りままでの収集や展覧会活動に関心を持てるよう工夫した。 特集展示 多く人にとって、はじめての本格的な画材であったろう水彩画を普及させた大下藤次郎の特別展が開催中であることにちなみ、また、来館者にとっても春というはじまりの季節をも感じられるよう工夫した。制作の始まりとなるデッサンや模写もふくめ、美術制作がはじまりから有機的に成長、発展していくさまをとくに強調した。

E. 出品作品・資料・来館者の安全確保

平成 29 年度目標	出品作品・資料・来館者の安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	常設展示 他館の寄託作品については、とくに安全に注意する必要がある、ガラスケース、床のラインと結界を併用して、無事に会期を終了した。 特集展示 常設展示とも、監視の目がいきとどきやすいよう、壁割りから見通しの良い展示室の構成になるよう工夫した。今回は事故はなかったが、監視職員の数が少ないことは不安である。

F. 入館者数

平成 29 年度目標	5,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4,860 名

2 調査・研究

美術館長による所見	学芸員の研究職としての自覚、さらには科学研究費の指定機関への採択に向けて、展覧会活動による成果が反映された調査研究とともに、学会等への参加や大学への研究協力を推進できるように心がけた。さらに研究紀要の復活など、予算面の充実も欠かすことはできないし、特別展開催時の展覧会図録の刊行も必須の課題として残されている。
評価部会による所見	調査・研究も着実に進めており、それが展覧会や収集など、美術館全体の活動を充実させることにつながっている。科学研究費を申請する資格を得るための、研究機関の指定を受けられるよう、引き続き努力することが望まれる。

①調査・研究

A. 美術に関する調査・研究件数

平成 29 年度目標	美術に関する調査・研究を行う。
自己評価・課題・改善案	学芸員各自がそれぞれの主題に関する調査・研究を行った。(協議会資料 14 頁①1)

B. 外部研究機関・団体等と共同した調査・研究

平成 29 年度目標	外部研究機関・団体等と共同した調査・研究を行う。
自己評価・課題・改善案	2 件の調査・研究を行った。(協議会資料 14 頁 ①2)

②調査・研究成果の活用

A. 展覧会・教育普及活動等への成果の反映

平成 29 年度目標	展覧会・教育普及活動等に成果を反映する。
自己評価・課題・改善案	6 件の成果があった。(協議会資料 14 頁 ②1)

B. 学術的公表 (館研究紀要・報告書・学会誌・インターネット等)

平成 29 年度目標	学術的公表(館研究紀要・報告書・学会誌・インターネット等)を行う。
自己評価・課題・改善案	11 件の学術的公表を行った。(協議会資料 15 頁 ②2)

3 作品・資料の収集

美術館長による所見	すでに全体評価にも記したとおり、石垣栄太郎のアメリカに残され、『LIFE』誌にも掲載された作品を購入・収集できたことは大きな成果であった。今後もこうした開催展覧会に出品された作品入手の機会を求めていきたい。また、有島生馬も貴重な洋画を購入し、国展作家の丸岡比呂史の屏風作品をはじめ、現代美術にいたるまで、限られた予算枠にもかかわらず、作品を継続収集継続できたことは評価される。
評価部会による所見	美術館の活動方針に則って、調査・研究の成果として作品収集を行っていることは高く評価されて良い。特に石垣栄太郎の《ハーレム裁判所の壁画》を発見し、収集につなげたのは大きな功績である。収集した作品についての一層の調査・研究も進めてもらいたい。

①作品・資料の収集

A. 美術作品収集方針に沿った作品・資料の収集（コンプライアンス、収集手続き）

平成 29 年度目標	美術作品収集方針に沿った適正な手続きに基づいて作品・資料の収集を行う。
自己評価・課題・改善案	美術作品収集方針に沿った適正な手続きに基づいて作品・資料の収集を行った。収蔵庫の狭溢化に伴い、保管方法の工夫と注意が課題である。

B. 購入、受贈に係る作品・資料の点数、内容

平成 29 年度目標	購入・受贈において作品・資料の点数、内容が適切であるようにする。
自己評価・課題・改善案	購入 16 点・受贈 8 点で、点数、内容ともに適切であった。（協議会資料 16-17 頁）

②図書資料の収集・公開

A. 図書資料の収集、研究や閲覧への活用

平成 29 年度目標	図書資料を収集し、研究や閲覧に活用する。
自己評価・課題・改善案	図書資料を収集し、研究や閲覧に活用した。（協議会資料 18-22 頁）

4 作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備等

美術館長による所見	当館では、保存科学系の学芸員が配置されていないにもかかわらず、収蔵作品の修理について、外部の専門家に直接来館依頼してアドバイスを求めることや、収蔵庫・展示室の温湿度管理、さらに虫害対策など、日々注視しながら整備をすすめている。将来的には、空気調和器機の交換工事やLED照明の配備についても、その対策・実行の検討に着手し、具体的な工事予定を作成・決定した。
評価部会による所見	科学的な知見に基づき、予算の許す限り最大限の取り組みを行っている。修復活動は、少しずつでも継続して着実に実施することが重要である。それでも活動が長くなれば、修復に大きな経費が必要な事例は出てくるものと思われる。そういった事例に対応できる予算の確保も今後必要になるだろう。

①作品・資料の状態調査

平成29年度目標	作品・資料の状態調査を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	展示、貸出の機会にあわせて継続的に所蔵品の状態を調査し、保存上の対策を必要とする作品については、マウントや額裏板の改良・交換を中心に処置を進めた。(協議会資料23頁)

②作品・資料の保存環境

平成29年度目標	作品・資料にとって適切な保存環境を保ち、整備する。
自己評価・課題・改善案	これまでの数年間に蓄積したデータをもとに、季節、天候による環境の変化から起こる虫菌害を抑えることができた。計画的な清掃にあわせ、毎月のトラップによるモニタリングの結果によって対策を加え、良好な保存環境を実現しつつある。空調設備の老朽化に伴う環境の不安定要素への対応が課題である。(協議会資料23頁②)

③作品・資料の保存修復

平成29年度目標	作品・資料に対し適切な保存修復を行う。
自己評価・課題・改善案	展示予定作品を中心に修復計画を立て、効果的な修復を行えた。また、作品の保存に適した素材を使った額装も進んでいる。さらに油彩作品の修復等を進め、展示と保存に適した状態に近づけることが課題である。(協議会資料23頁③)

④作品・資料の管理

作品・資料の管理(台帳・データベース)

平成29年度目標	作品・資料の管理(台帳・データベース)を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	作品の状態調査、展示、貸出記録、台帳・データベースの管理を日常的に実施、更新処理を行っている。

⑤作品・資料のデータ公開

平成29年度目標	作品・資料のデータを公開する。
自己評価・課題・改善案	展覧会ごとに出品目録を作成し、新収蔵作品は目録を年報に掲載した。文化遺産オンラインへの追加登録が課題である。

5 教育普及

美術館長による所見	教育委員会や学校・大学教育研究現場との連携を従来どおり推進し、活発な活動を展開していることは評価される。また、恒例の夏休みに開催する展覧会とワークショップの連動にも、子どもをはじめとする多くの来館者を集め、成果を得ている。昨年評価部会から指摘された友の会活動についても、会員数の増加促進とともに、展覧会事業との連携など、理事会でも見直しに着手したところである。
評価部会による所見	各展覧会に際しての講演会などの活動をはじめ、子ども美術館部、バックヤードツアー、コンサートなど、外部団体とも連携しながら、美術館の活動を広く知ってもらうという視点からの活動を行っていることは評価でき、成果も上がっていると考えられる。友の会のあり方についてはこれから考えていく必要があるかもしれない。

①学校・団体鑑賞の受入

A. 受入回数

平成 29 年度目標	120 件を目標とする。
自己評価・課題・改善案	185 件を受け入れた。(協議会資料 24 頁①)

B. 参加者数

平成 29 年度目標	3,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	3,769 人が参加した。(協議会資料 24 頁①)

C. 鑑賞教材等の制作

平成 29 年度目標	展覧会にあわせて鑑賞教材を制作する他、教員への利用促進案内等を制作する。
自己評価・課題・改善案	「なつやすみの美術館」展で鑑賞教材を 3 種類制作した(協議会資料 6 頁「制作物」)。各展覧会で教材の制作が課題である。

②講演会・解説会等

A. 講演会等の回数

平成 29 年度目標	25 回を目標とする。
自己評価・課題・改善案	33 回実施した。(協議会資料 5 頁～12 頁)

B. 講演会等の参加者数

平成 29 年度目標	500 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	631 人が参加した。

③ワークショップ・バックヤードツアー等の体験的プログラムやコンサート

A. ワークショップ等の回数

平成 29 年度目標	6 回を目標とする。
自己評価・課題・改善案	4 回実施した。(コンサート 1 回、ワークショップ 2 回、バックヤードツアー 1 回)

B. ワークショップ等の参加者数

平成 29 年度目標	80 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	130 人が参加した。

④ 県民や地域との連携

A. ボランティア活動の受け入れ

平成 29 年度目標	図書ボランティアの活動を受け入れる
自己評価・課題・改善案	延べ 178 人の活動を受け入れた。(協議会資料 25 頁④1)

B. 友の会等の支援組織の活動への協力

平成 29 年度目標	友の会、NPO 等の芸術文化支援組織の活動に協力する。
自己評価・課題・改善案	和歌山県立近代美術館友の会の活動や、和歌山芸術文化支援協会によるワークショップなどに協力した。(協議会資料 25-26 頁)

C. 学校・教員等と連携した事業

平成 29 年度目標	地域の教員等と連携して和歌山美術館教育研究会を組織し、中学校での宿題としての展覧会利用やワークシート製作など多様な取り組みを行う。和歌山大学教育学部と県教育委員会の連携事業の一環として、和歌山大学教育学部、同附属小学校・中学校と連携して展覧会を課題とした鑑賞、制作、指導法の策定に取り組む。和歌山市美育協会に協力し、鑑賞に関する研修会を開催する。学校教員との協力体制の強化を目的とした研修会を継続して開催する。
自己評価・課題・改善案	中学校教科等別研修会の開催、和歌山美術館教育研究会を 10 回開催するなど、学校や教員と連携した事業を実施することができた。(協議会資料 26-27 頁)

D. 地域と連携した事業

平成 29 年度目標	地域と連携した事業を行う。第 71 回和歌山県美術展覧会(県展)、第 3 回ジュニア県展を文化学術課との連携のもとに実施する。県警音楽隊たそがれコンサートへの事業協力を行う。マジカルミュージックツアー等イベントへの事業協力を行う。
自己評価・課題・改善案	第 71 回和歌山県美術展覧会、第 3 回ジュニア県展を実施した他、県警音楽隊たそがれコンサートやマジカルミュージックツアーなどへの協力を行った。(協議会資料 27-28 頁)

E. 県内博物館・図書館施設等と連携した事業

平成 29 年度目標	県立 4 館が連携して風土記まつりを実施する。図書館を含む県立 5 館でスタンプラリーを実施する。「和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議」の一員として活動する。
自己評価・課題・改善案	県立 4 館が連携して風土記まつりを実施した。また図書館を含む県立 5 館でスタンプラリーを実施した。「和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議」の活動に参加した。和歌山県文化振興財団や和歌山県福祉事業団の事業に協力した。

F. 観光資源として活用できる方策

平成 29 年度目標	近隣の宿泊施設にチラシ等を配布し、利用についてアピールする。
自己評価・課題・改善案	県内各地の教育委員会、ロータリークラブ、ライオンズクラブ等への利用アピールを行った。

⑤人材育成

A. 博物館実習生・インターンシップ・教員研修などの受け入れ

平成 29 年度目標	博物館実習生・職場体験学習・インターンシップ・教員研修などを受け入れる。
自己評価・課題・改善案	2 大学 4 名の博物館実習生、延べ 90 名の職場体験学習およびインターンシップ等を受け入れた。(協議会資料 29 頁)

⑥機関誌「NEWS」の刊行

平成 29 年度目標	機関誌を年 4 回刊行する。
自己評価・課題・改善案	年 4 回、各 2,500 部を発行した。

⑦県民への直接的情報提供

A. 問い合わせ・質問(電話・来館等)への対応

平成 29 年度目標	専門的内容に関する問い合わせ・質問(電話・来館等)に対応する。
自己評価・課題・改善案	10 件に対応した。(協議会資料 30 頁)

⑧メディア等への情報発信

A. 掲載件数、メディアへの広報・情報提供活動、番組制作等への協力

平成 29 年度目標	掲載 150 件を目標とする。メディアへの広報・情報提供活動を行う。番組制作等に協力する。
自己評価・課題・改善案	新聞・雑誌に 107 件掲載された。

⑨WEB による広報

A. ホームページアクセス件数・更新回数・工夫

平成 29 年度目標	ホームページ月間ページビュー数 15,000 件、更新回数は 24 回を目標とする。
自己評価・課題・改善案	ホームページ月間ビュー数は約 22,000 件、更新回数は 44 回であった。

B. メールマガジン等の発行回数・工夫

平成 29 年度目標	12 回を目標とする。メールマガジンに画像を加える等興味を引く工夫をする。
自己評価・課題・改善案	メールマガジンは 13 回発行。Facebook のいいね! は 1,586 件、twitter のフォロワーは 3,285 件。

⑩広報印刷物の制作

A. ポスター・チラシ・案内はがき・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動

平成 29 年度目標	ポスター・チラシ・案内はがき・年間の展覧会カレンダー等の情報提供・広報活動を行う。
自己評価・課題・改善案	広報印刷物を制作し、情報提供・広報活動に努めた。

6 国内外との連携

美術館長による所見	本年4月から6月にかけて、冒頭の全体評価にも記したとおり、島根県立石見美術館で、当館のコレクション展が開催され、引き続いて、休館中の滋賀県立近代美術館の貴重な作品を預かり、当館の常設展において、当館のコレクションとの関わりをテーマに公開している。今後も、こうした事業をすすめるとともに、当館コレクションの国内外の展覧会への貸し出し要請についても、可能な限り対応していきたい。
評価部会による所見	展覧会の開催を契機に、他館との共同による調査を行うなど、美術館の運営全体と関連する活動を行うことができおり評価できる。

①他機関への作品・資料の貸出し

平成 29 年度目標	他機関へ作品・資料を貸出す。
自己評価・課題・改善案	12 件の展覧会に作品の貸付を行った。(協議会資料 32-34 頁)

②国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開

平成 29 年度目標	国内外の美術館や関連組織等と連携した事業展開を行う。
自己評価・課題・改善案	4 件の事業を実施した。(協議会資料 34 頁)

7 安全と快適性

美術館長による所見	新館の開館20余年を経て、今年度末から一時休館して、まず空気調和器機の入れ替え工事を行う。さらに来年度は、照明のLED化など、幸い予算化もすみ工事が可能となった。こうした機会を経て、さらに「安全と快適性」に取り組んでいく。
評価部会による所見	バリアフリー化については基本的な点は満たしていると思われる。展示作品の安全確保については監視員の確保など取り組む余地がある。多言語化への取り組みは引き続き進めていく必要がある。

①施設・設備の維持管理

A. 施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等による安全確保

平成29年度目標	施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンス、修繕、関係職員への教育等によって安全確保を行う。
自己評価・課題・改善案	施設・設備の定期的な保守管理、日常的なメンテナンスを行い、経年劣化等による必要な修繕についても順次修繕を行うことにより、安全確保を行った。

B. 施設・設備の改修や新たな整備

平成29年度目標	開館後23年の経過による各設備老朽化に対し、修繕を行う。
自己評価・課題・改善案	経年劣化等に対して必要な修繕を行うとともに、アプローチプラザ大庇内の雨水配管破損による雨漏りの修繕を行った。また空調設備改修設計を実施するとともに、照明器具の更新に向け財政局と協議を行った。外壁の改修、特定の雨漏り箇所の修理が課題である。

C. 日常的なメンテナンス等による施設的美観の保持・衛生管理

平成29年度目標	日常的なメンテナンス等により施設的美観の保持・衛生管理を行う。
自己評価・課題・改善案	日常的なメンテナンスを行い、設備の保持を行った。また、入口付近の清掃を実施し、施設的美観等衛生管理を行った。

D. 長期修繕計画

平成29年度目標	長期修繕計画に基づき、計画的に修繕を行う。
自己評価・課題・改善案	雨水配管、階段石貼替え、空調設備等修繕を予算範囲内で実施した。また、今後必要な大規模な修繕として、外壁の特定雨漏り箇所修繕、収蔵庫増設工事の修繕計画を作成するとともに、計画が予算化されるよう、県財政局と折衝していく。

②快適性の向上

A. バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応

平成29年度目標	バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応を取る。
自己評価・課題・改善案	必要に応じて点字ブロック等の改修を行った。

B. 利用者に対する接遇

平成29年度目標	利用者に対し適切な接遇を行う。接遇の向上を図る。
自己評価・課題・改善案	利用者に対する接遇を適切に行うよう職員に指示した。

C. 快適性向上のための上記以外の取り組み

平成29年度目標	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、改善を図る。
自己評価・課題・改善案	施設の破損や汚れ等について、日常気づいた点を把握し、改善を図った。

③危機管理

A. 危機管理・防災体制

平成 29 年度目標	危機管理・防災体制について、実地訓練等を行う。同体制について日常的な取り組みを行う。
自己評価・課題・改善案	火災避難訓練を実施した。

B. 個人情報の保護・データ管理

平成 29 年度目標	個人情報の保護・データ管理を適切に行う。
自己評価・課題・改善案	展覧会等関連イベント参加者及び学芸員育成にかかる実習生の情報管理を適切に行った。

④職員研修

A. 館内外の研修参加実績

平成 29 年度目標	館内外の研修に対して、職員が参加できる体制をとる。研修参加は各職員あたり 2 回以上の参加を目指す。
自己評価・課題・改善案	機会がある毎にできるかぎり研究会に参加した。

⑤情報公開・利用者のニーズなどの把握

A. 使命、目標、計画などの方針の公開

平成 29 年度目標	使命、目標、計画などの方針をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	http://www.momaw.jp/mission.php に公開している。

B. 実績や評価結果の公開

平成 29 年度目標	実績の検討や評価を行い、その結果をホームページ等で公開する。
自己評価・課題・改善案	http://www.momaw.jp/assessment/assessment.php に公開している。

C. 入館者情報（年齢層・地域・情報入手手段等）の把握

平成 29 年度目標	入館者情報の把握を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより入館者情報の把握を行った。

D. 利用者の満足度・ニーズなどの把握

平成 29 年度目標	利用者の満足度・ニーズなどの調査を行う。
自己評価・課題・改善案	アンケートにより利用者の満足度・ニーズなどの調査を行った。

E. 調査結果等を反映した運営

平成 29 年度目標	満足度・ニーズなどの調査結果を反映した運営を行う。
自己評価・課題・改善案	階段や床の汚れを清掃した。

8 入場者数と財源の確保

美術館長による所見	今年度も従来どおり、夏休みに子どもたちを中心に入場者数を増やすことができた。来年度はさらに秋の「国画創作協会 100 年記念展」開催を機に、広報活動の充実もはかり、関西を中心に来館を促進したい。また、科学研究費獲得の採択に向けて努力するとともに、外部資金の獲得についても、実現に向け、引き続いてあらゆる方策を探っていきたい。
評価部会による所見	当初の目標人数を達成できるよう、次年度へ向けて努力していただきたいが、予算でできる限りの活動は行っており、目標の設定自体に無理がある可能性も残る。

①入場者数

A. 入場者数

平成 29 年度目標	入場者数は 50,000 人を目標とする。
自己評価・課題・改善案	49,060 名

②予算の確保

A. 入館料収入 達成率

平成 29 年度目標	当初予算 5,591 千円に対する達成率を 100 パーセントとする。
自己評価・課題・改善案	入館料収入は 4,178 千円、達成率 74.7%で目標を達成できなかった。今後は広報活動の充実を図り、有料入館者数の増加を目指す。

B. その他の収入確保

平成 29 年度目標	駐車場収入 7,337 千円、行政財産使用料 1,582 千円、その他 2,335 千円を目標とする。
自己評価・課題・改善案	駐車場収入 7,222 千円、行政財産使用料 1,587 千円、その他 378 千円で、行政財産使用料以外は目標を下回った。今後は美術館・博物館の利用促進を目指し、広報活動の強化を図る。

C. 外部助成金等の獲得

平成 29 年度目標	助成金 4,135 千円を目標とする。
自己評価・課題・改善案	一般財団法人地域創造より 771 千円を獲得した。今後は獲得に向け更なる努力を行っていく